
アメリカン

マイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アメリカン

【著者名】

マイル

N 9 6 7 6 E

【あらすじ】

「私」がアメリカに留学している際に起きた数々のエピソード。

第一話（前書き）

他人に見せるのは初めてであまり自信がないのですが、読んで貰えたら幸いです。

第一話

一話

私は今、アメリカに留学している。そして今、爆音を聴いている。舞台の上で白人が体を振りながら激しくドラムを叩いていた、その姿はまさしく狂人。

それでも見ていると力が湧いてくるのだ。そして気づけばリズムに合わせて頭を振ってしまう。

バンド名は「Percussion」、衝突、震動って意味であり、これはいかにドラムが狂えるかがみものである。

ライブが始まつて、もうかれこれ一時間が経つているというのに男は、笑いながらドラムを叩いていた。疲れているはずなのに、ずっと笑っている。

ひと言も喋らずに笑っている姿は、恐ろしくもあるが、興奮する。

私が初めてアメリカに来た時は不安でいっぱいだった。それでも次第に取りつかれるように惚れていった、自由の国、アメリカに。アメリカに居ると日本が嫌いになる。何故つて？ 繩られたくないんだ。

アメリカには自由があつた。週末は毎週、朝まで踊り狂い、好きな物を食べたいだけ食べる。

自己主張が美とされる、それがアメリカなんだ。

キャンパスの中を行われた「Percussion」のライブは終盤にさしかかる。皆、叫んでいた。私も一緒になつて叫ぶ。意味もなく甲高い声を挙げては、ゲラゲラと笑つた。下品じゃない。

終わると、さわざわと学生たちが会場から出していく。興奮しきった私の体は收まりがどことなく收まりがつかなかつた。

出ると外は冷たく、私の火照つた頬を冷やしてくれた。そつと頬を触るとカサカサだ。わずかばかりの星空の下を私は歩いて行く。先週はテストもあつたし、勉強は一杯した、だから今日はもっと騒ぎたかった。

「へい、サエコ」、ジョンが私に声をかけてきた。英語のクラスでジョンとは一緒に、よく話す。いい人だし、私は彼が好きだ、友達としてだけだ。

「ライブはどうだったかい？」

「うん、最高だつたよ。」

「僕も好きだよ、特にあのドラムが格好良かつたよね」

激しく同感である。ジョンが私と同じ考え方を持つていてる事にうれしくなり、私は興奮気味に、ドラムの良さを彼に語る。まだ冷めない頬の熱が、再び熱くなる。

私は喋り出した。ジョンは私の話を聞いては、頷き、同意してくれる。

それだけで嬉しくなり私はどんどん話す。気づくと寮の前まで到着してしまい、あとは別れるだけ。まだ話したい。酔いもまだ冷めていないのに帰るのがもつたいたい。

名残り惜しみながら、別れて寮に戻ろうとする。でも別れてすぐジョンが私を呼んだ。

「へい、サエコー今から僕の部屋に来て、飲み直さないかい？」
嬉しくなり、

「イエス！行くよー！」
と、叫んだ。

ジョンの部屋に到着すると、ポスターが貼つてあつた。よく分から
ないポスターだらけ。

決して綺麗とは言えないが、汚くもない。普通の部屋だろう。
ジョンが台所に行き、大きなウイスキーを持つてくると、私にそれ
を見せ、微笑む。

私はニッコリと笑い返す。
その後、私たち二人はたくさん話した、ウイスキーを水割りで飲み
ながら。

楽しかった事だけは分かる。沢山しゃべって沢山笑つた。
時間だけが過ぎ、体中が火照つてくる。
ジョン私はベッドルームに誘い出した。
私はなんとなくついて行く。

質素なベッドルームに入ると後方部に立つていた、軽く私の肩に手
を廻す。

私はなんとなくジョンの手に触れる。
私はジョンと向き合い、キスをした。
キスは濃厚で、よかつた。

「オウサム」

こんなに素晴らしいキスは始めてだ。
続いてジョンは私のブラジャーのホックを外そうとした。ジョンは
私の胸を揉んでいた。

どれだけの時間が経つたか分からない。
ジョンがチャックをおろした時、私は現実に戻つた。

私はベッドから立ち上がる。

少し困惑したジョンは、後ろを向きながら立ちつくす私の肩に再び
に手を廻す。

私は、ジョンの手を抜けた。それでも再び廻してくれる。

「いのん、ジョン、私はやるべきではなかつたわ。」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9676e/>

アメリカン

2011年1月6日14時32分発行